

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100019		
法人名	株式会社 SHINEI		
事業所名	かすみそうの家_花ユニット		
所在地	桑名市森忠1728-4		
自己評価作成日	平成 31年 2月 3日	評価結果市町提出日	令和元年 8月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2490100019-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	平成 31年 3月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔はみんなの命のお薬です。」(理念)をスタッフ一同実践し生き生きと家人さんと一緒に過ごしています。かすみそうの家独自の目標でもあり、開設以来一貫して家人さんに対して「優しく丁寧なケア」を心がけています。その成果なのか、家人さんは全員穏やかです。これからも家人さんに寄り添った丁寧なケアを実践して行きます。年中行事としては夏祭り、食事会、クリスマス会を行い、家族様同士の交流の場ともなっています。誕生会や事業所間の交流会も催し、近所のコンビニでの買い物は社会生活の一部を体現してもらっている。(買い物をする。料金を支払う。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かすみそうの家には、送迎用の車含め看板がない。「グループホームに入っている自分を人に知られたくない。」という利用者のプライドに配慮してのことである。理念に基づく様々な配慮は、「職員はいつも笑顔で接してくれる」との声に代表され、その明るい笑顔の挨拶や柔軟で細やかな対応や優しい言葉がけは家族からも、高く評価されている。利用者への対応方法は常に職員同士で話し合わせ、「利用者の為かどうかが最優先される。利用者一人ひとりの在宅時から今に至る様子や思いを詳細に記録し続けた「その人を知る」シートは、利用者の意向に沿った暮らしのデザインの具現化に役立っている。自立支援に向けた家事や活動、行事やケアの在り方等にも様々な工夫が見られ、利用者が講師となる手芸や絵画等の活動も、本人のやりがいを刺激し状態の改善に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔はみんなの命のお薬です。」を会社の理念とし全体の勉強会やミーティングで研修を行い、家人さんと共に笑顔で生活出来るようケアに努めている。	新人研修や振り返り研修で、職員全員が理念を理解し共有している。理念の実現に向けて励んでいる姿が挨拶や声掛けの明るさ、対応の柔軟さから伺え、利用者が明るくなったと家族の評判も良い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地では無い為、近隣住民との関わりは少ないが、近くにコンビニや喫茶店などがあり外出を兼ねて利用している。	事業所の周りに一般家屋はなく、地域住民との交流が持てないので、経営者宅がある隣の自治会に協力を仰いでいる。地域と繋がりが持てるよう民生委員と連絡を取り、連絡会への参加の可能性を探っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けた取り組みをしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し行事や入居者の状況について報告している。参加者には話し合いだけでなく、レクレーションにも参加してもらい、施設への意見や感想を聞いている。	会議の日にレクや催しを行い、家族参加を促したりボランティアに参加を依頼したりと工夫しており、利用者の様子が直に見て取れると市職員や参加者に好評である。一方、日中は、家族が出にくい時間帯でもあり、参加者は少ない。	今の取組を利用者家族全員にまで広げたり、付き合いのある自治会やその老人会、またオレンジカフェでも参加を呼びかけるなど、偏りのない参加者内容と人数を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や管理者が介護認定の申請時に出向く際に関わりを持っている。	市の担当職員とは、運営推進会議に出席して貰い意見交換を行っている。地域との付き合いが薄いことを相談して、地区の民生委員さんを紹介して貰い、利用者が地域に繋がりを持てるよう協力して貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやケース会議等で身体拘束、スピーチロック等に関してマニュアルを基に確認し周知しケアにつなげている。ニュースになった事例などを用いディスカッションもしている。	会社全体や施設内で虐待やスピーチロックを含めた勉強会をパート職員も参加して定期的に行っている。管理者は、拘束・虐待に繋がらないよう職員のストレスの軽減にも配慮し、職員の悩みをいち早く察知すべく気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に勉強会をし、虐待が起こらないようにスタッフが理解をしケアを行っている。ニュース等で取り上げられた時なども管理者の申し送り、ミーティングで話し合う機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業などを活用する支援等は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居者や家族にはホームの見学と面接をし、十分に契約内容について説明している、解約についても入居者、家族と相談して納得の上行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等から苦情、意見があれば、申し送りをし解決するようにしている。家族等とも話しやすい関係を築き、来所時や行事の際に忌憚なく意見をだしてもらうように配慮している。	常々、気持ちの良い挨拶と話しやすい雰囲気を中心掛け、意見や要望を引き出す努力をしている。また、年3回の家族会の行事時のアンケートや、受診報告の電話やメール時のついでに、意見を聞き反映に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務の時だけでなく、個別での話し合いの機会を設けて職員の意見を聞いている。又、年1回自己評価を行い、代表者とマネージャーが職員の意見を聞いている。	日頃から職員のストレスや悩みに配慮し、個別に話し合いの機会を多く持ち、働き易い職場創りを心掛けている。職員は、「管理者が、安心して働ける環境と意見提案がし易い体制を作ってくれている」と言っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月に面談の上、契約を更新している。7月には自己評価を行い、職員の現状、状況の把握に努めている。職員や代表者の評価で表彰をしてモチベーションを高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に職員向けの勉強会を行っている。研修に参加出来る機会もつづけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内にて相互訪問をし交流会を月二回催している。又、研修をしたり意見交換の場としている。他社の支援施設を訪問し空き、待ちの状況や意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面談を行い、要望や不安な思いを聞き取り、安心してもらえる関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後、1ヶ月は細目に家族さんに本人さんの様子を報告し家族様の要望、依頼に対しては出来る限り対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接にて本人と家族が必要としている支援を確認し、サービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話や訴えなどから一人一人の思いや何に不安があり何に楽しみを感じているかを把握し個性を大切にしながら色々な思いを共有し支え合える関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から情報を提供してもらい、家族の意向を踏まえつつ、本人の暮らしやすい環境を作り、家族と共に支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、行きつけの美容院へ行ったり、他の施設への交流会で馴染みの人と会ったりしてもらっている。	馴染みの場所へのドライブや、家族との食事会、他事業所との交流会により、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。また、積極的に家族協力を歓迎することで、美容院や外食や墓参等、馴染みの関係維持貢献に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家人さん同士の関係を考慮し座席を決めている。時折席替えもしながら家人さん同士の関わりを大切に孤立しないような環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも引き続き支援する旨を家族様に伝え関係が途切れないようにしている。夫婦世帯で入居者が他界された場合は時々連絡を入れ安否確認をしている。包括へも連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で職員が気づいたことを基に担当が中心になり「その人を知る」を作成し本人の意見や要望をスタッフ間で共有するようにしている。	買い物、散歩、入浴等で職員と二人きりの寛いだ雰囲気の際に聞き取った内容を、「その人を知る」シートに書き足し職員間で共有して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望の具現化に向け、思いや意向をケアに反映させるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から提供してもらう情報や入所時に作成している情報書を基に本人のこれまでの生活歴や暮らし方を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人一人の日々の様子を記入し特変、不眠等があった家人さんについては口頭で伝えると共に業務日誌に記入し職員全員に周知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新前に担当の職員が「その人を知る」というシートに現在の状態を記入しケース会議で他の職員の意見や家族の要望も取り入れて作成している。	「その人を知る」シートに記入された本人の思いや意向を個別日誌に記された本人の様子や状態を基に、家族の意向と合わせてケース会議で、スタッフ全員がグループに分かれ検討し、グループ毎に検証をした上でケアプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が個別日誌に様子を記入し他の職員もそれを見る。特に周知すべきことは申し送りし、又、申し送りノートにも記載する。ミーティング、ケース会議でも共有しケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家人さんの状態に変化があった時や、家族の要望があった時は随時、サービスの内容を変更し対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域のボランティアに訪問してもらい実演してもらっている。家族様からもギター演奏、歌の披露もして頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続してかかっている病院のかかりつけ医や協力医療機関など希望するところを選んでもらっている。連絡をとりながら家人さんの体調の変化に対応している。	在宅時のかかりつけ医に家族が同行する際は、利用者の体調や状況が医師に正しく伝わるよう記載した連絡票を渡している。家族の状況説明が困難な場合は、管理者が同行し医師との正確な情報共有を図る取り組みをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	家人さんの体調の変化があった時は看護師に相談し必要があれば、かかりつけ医に相談し受診や往診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは主治医や看護師と相談しながら連絡を取るようになっている。入院の際は3日に1回面会し状況の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際、家族と看取りについて話し合いをしている。状態が悪化し、看取りの状態になった時は本人、家族の意向を尊重し、主治医を含めて話し合い対応している。変化がある場合はその都度意向を聞き、主治医、ご家族と共に話し合いを重ね対応している。	状況変化の都度揺らぐ家族の気持ちや意向に寄り添い、職員は「看取りこそ丁寧な対応が求められる。」と主治医との間を丁寧に取り持ち話し合いを重ねている。最後は、家族に宿泊室に泊まって貰い、納得のいく看取りができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会で緊急時の対応について話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	家人さん、職員が共に避難出来るよう避難訓練を行っている。車椅子の家人さんが多いため訓練では案外スムーズに避難出来る。	年2回の避難訓練の内、1回は消防署指導の下で行われる。車いす利用者が多いので職員のペースで避難ができ、短時間でスムーズに行われている。実際の夜間に各災害を想定した訓練を、現在検討中である。	所定の訓練は実施されているが、夜間時の災害に対しての不安はぬぐい切れない為、実際の夜間に様々な具体的な災害を想定した更なる訓練も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体勉強会やミーティング等で羞恥心についてマニュアルを基に例をあげ話し合いをしている。日頃より職員に問題があればその都度注意をしている。	利用者の尊厳やプライドに配慮し、施設や送迎車に看板を掲げない。職員は「羞恥心やプライバシーの配慮」マニュアルの内容を理解し身に付け、日頃から丁寧な言葉かけを心掛けている。トイレの声掛けにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家人さんとのコミュニケーションを通じて思いや希望、要望を汲み取れるようにしている。又、話しやすい環境作りに努めている。一対一の時間を取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、家人さんの状態に配慮しながら思いを尊重し、一人一人のペース、リズムで生活してもらえよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から、身だしなみに気をつけている。本人の希望の服を着てもらったり、月に1度、美容院の方に訪問してもらい本人の希望に沿った髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家人さんとスタッフが一緒に調理したりコーヒー、ココア等を作ったり体調を見ながら食事の後片付け等をしてもらっている。それぞれの家人さんが役割として手伝ってくれており、「私がする。」「させて」と積極的に参加してもらっている。	利用者は準備や後片付けに積極的に参加している。心地よい音楽が流れゆっくりと食事を楽しんでいる。朝食がパンの日にご飯を選ぶ人もいる。また、更なる参加を促すため、利用者一人ひとりの能力や意向の再検討を考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに家人さんの食事量をチェックしている。特に食事量や水分量の配慮の必要な家人さんには個別に記入し確認するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしてもらうよう声かけをしている。特に介助が必要な家人さんにはスタッフが付き添い見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮しながら声かけをし誘導が必要な家人さんは誘導している。トイレにて自然な排泄が出来るよう介助している。	トイレでの排せつを大切に考え、夜間失禁のある人も早朝30分毎の声掛け誘導・介助に取り組み、オムツにしない努力をしている。リハパンから布に移行出来た人もおり、家族アンケートから誘導方法の良さが伺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな家人さんには排泄状況に合わせて漢方のセンナ茶を飲んでもらっている。又、主治医と相談して内服調整をして排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は必ずスタッフが付き添いコミュニケーションを計る場ともなる。午前、午後と分かれているが本人希望に沿って入浴している。シャワー浴のみ希望の人もいる。夕方以降、急に「入りたい」と希望される時も対応して満足してもらっている。	午前と午後の希望に沿った時間帯だが、夕方以降の急な希望にも対応している。拒否のある人には、状態に合わせて柔軟に対応している。家族の協力を仰ぎ一緒に入って貰う等、個々に沿った支援を常に模索している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家人さん一人一人の生活習慣に合わせて休憩や睡眠をしてもらっている。身体の不調や不眠等があれば、それらを考慮して休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当を決め管理している。服薬が変わったり、臨時薬については必ず申し送りし受診ファイル、申し送りノートにも記載し把握している。薬剤師からも薬についての説明はその都度受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事に加え手芸や制作物など家人さんのレベルに合わせて日々提供している。家人さん同士、競争心もあり張り合いになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や誕生日に外食したり、天気の良い日は近くのコンビニのイトインで飲食したり出来る限り外出の機会を設けている。看取りに近い家人さんについても自宅へお連れしたり自宅近くの地域を車で回ったりしている。又、家族様の協力にて外食や買い物に出かけてもらっている。	季節毎の花見や誕生日の外食、また近所のコンビニ散歩でイトインを楽しみ、お店の人とも仲良く談笑できる仲になった。暖かい日は、テラスでの裸足の日光浴やティータイムを楽しんでいるが、家族の認知度は低い。一方、家族協力による外出も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちの現金は事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば手紙を出したり、電話で話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃からホール、廊下などゴミや汚れがないよう清掃している。廊下の天井が高く、日光が入りやすくなっている。又、廊下の壁には写真や家人さんの作成物を飾り居心地のいい環境を作るようにしている。言い争いやケンカもなく穏やかな時間が流れています。	広い廊下の高い天井からの柔らかい陽射しで、落ち着きと開放感を感じ、ホール共に清潔感がある。ホールは、花・風が繋がり、自由に行き来ができ広く感じられる。利用者制作の処理袋を使いトイレに匂いを残さない工夫がある。また外気浴に使うテラスを更に心地よくする計画をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の家人さんの思いに合わせて一人でも仲のいい家人さん同志でもホールのソファや居室にて自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人さんにとって、居心地のいい環境になるよう家族とも相談し使い慣れた物や服を持ってきてもらっている。居室の壁には写真など飾っている。家族の来訪がない利用者には、職員が代わって利用者本位に飾り付けをしている。	居室は掃除が行き届き、在宅時の写真や飾り、生花や鉢花も飾られ、世話されており自宅生活の延長を感じさせる環境が大切にされている。各部屋の暖簾は、家族と利用者の共同制作で施設からのクリスマスプレゼントである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立して安全な生活を送ってもらえるよう、その時々状態に合わせた配置や整備、手すりや平行棒などを設置している。		